

# 京都府

定 数： 7 名

立候補者数： 6 名



氏名 苅谷 康之  
氏名ふりがな かりや やすゆき  
都道府県士会 京都府  
年齢 60  
勤務先名称 西陣病院

### 日本理学療法協会活動歴

平成23年度～現在 日本理学療法士協会 代議員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成2年～7年度 京都府理学療法士会 財務部 部長  
平成8年度～平成27年度 京都府理学療法士会 財務部 理事（財務担当）  
平成28～29年度 京都府理学療法士会 副事務局長 兼 財務担当理事  
平成30年度～現在 京都府理学療法士会 副会長 兼 事務局長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

京都府理学療法士会の副会長・事務局長として日本理学療法士協会や近隣の各理学療法士会との関わりを進めていく中で情報共有や連携の重要性が高くなってきている事を感じております。日本理学療法士協会の団体規模が大きくなり、国や行政への働き掛けも活発化している中で国や行政からも協会や士会に求められるものが大きくなっています。その求めに対して正しく対応するためには正しい情報の収集と現状の把握が必要であり、その為に協会・他士会との連携の必要性が今後ますます高くなるものと思われれます。私はこの2年間の代議員就任期間中に特に注力した事業は協会理事会の情報共有でした。出来る限り協会が傍聴可能とされている協会の理事会を傍聴させて頂き、その中で議論されている内容をまとめた上で士会の理事各位に発信してまいりました。当士会の中心で活動を行って頂いたり他団体との関係強化を図っていく中で協会からの情報は有益な一助となると考えております。今後もまた協会から多くの情報を士会の理事の皆さんへ伝え、様々な士会活動の中で会員の皆様に還元出来るように情報の収集と発信を図ってまいります。また士会の事務局長として士会員の意見を協会に届け、そして協会の動きや意向を士会の事業や広報を通じて士会員の皆さんへ伝えられるように、次期においても代議員に立候補させて頂きました。よろしくお願いたします。



氏名 麻田 博之  
氏名ふりがな あさだひろゆき  
都道府県士会 京都府  
年齢 60  
勤務先名称 老人保健施設アールそせい

#### 日本理学療法協会活動歴

2016年～現在	代議員
2019年～2020年	懲戒委員会委員
2019年～2020年	組織検討委員会委員
2021年	新組織検討委員会委員
2025年～現在	労働環境委員会委員

#### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2000年～2017年	理事（生涯学習部）
2016年～2017年	学術局副局長（生涯学習部理事）
2018年～現在	会長

#### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

2018年 第23回日本基礎理学療法学会学術大会 副大会長

#### 立候補の趣旨

私は2000年より京都府理学療法士会に理事として事業執行にあたり2018年からは日本理学療法士協会との連携、行政事業拡大及び他団体との協調に力を入れてまいりました。これら活動を如何に協会へ伝えより良き事業に発展させていく役目として代議員活動に取り組んでまいりました。

経験的にも集大成の時期に入っております。今回、今迄の経験をフル活用し京都府理学療法士会員の皆さまに有益な事業推進のハブ役となるよ頑張っていきたいと決意し立候補します。



氏名 田村 篤  
氏名ふりがな たむら あつし  
都道府県士会 京都府  
年齢 47  
勤務先名称 洛西シミズ病院

#### 日本理学療法協会活動歴

2024年～現在 日本理学療法士協会代議員

#### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

2020年～現在 京都府理学療法士会理事  
2024年～現在 京都府理学療法士会社会局長

#### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

#### 立候補の趣旨

京都府理学療法士会の理事として約6年間、臨床実習指導者講習会協議会をはじめとする様々な会務に携わってまいりました。現在は社会局長として他府県との交流も増える中、士会事業における「協会と士会の連携」の重要性を痛感しております。協会が推進する新たな取り組みを士会へ迅速に共有し、同時に現場の切実な声を協会へダイレクトに届けるパイプ役は、今後ますます重要になります。近年の会員数減少という課題に対しても、協会と士会の相互理解を深め、組織の価値を会員の皆様に分かりやすく伝えることで、魅力ある職能団体への一助となりたいと考えております。皆様の声に耳を傾け、組織の活性化に尽力いたします。



氏名 田後 裕之  
氏名ふりがな たご ひろゆき  
都道府県士会 京都府  
年齢 56  
勤務先名称 京都岡本記念病院

### 日本理学療法協会活動歴

平成28・29年度 職能課生活期ワーキンググループ協力委員  
令和2年～令和7年度現在 日本理学療法士協会 代議員

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成22年～平成25年度 公益事業部部員  
平成26年～平成29年度 社会局保険部部長  
平成30年～令和元年度 社会局副局長、保険部・災害対策部理事  
令和2年～令和7年度現在 地域局長、災害対策部理事  
平成26年度 第25回 京都府理学療法士学会 準備委員長  
令和元年度 第59回 近畿理学療法学会 運営局長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

2026年度は診療報酬改定の年です。報酬改定は今後の国の方向性を反映してますが、リハビリテーションの分野では「早期介入」「連続性（日祝の途切れなく）」「結果を重視」「退院支援・在宅連携」「DX推進」が盛り込まれています。処遇改善も改定に挙げていただいたなか、複数課題を抱える地域社会から「理学療法士は絶対に必要！」と認めていただくため、医療、介護、障害、福祉での個々への直接支援だけでなく、予防や健康増進にむけた集団・地域への直接的・間接的支援が不可欠です。更には問題が生じにくい環境への働きかけ（総合的地域力強化への関与）も必須で、多様性を配慮した、あらゆる状況、環境、要請、変化への柔軟な対応能力と連携・調整能力を持った実践力の提供が求められます。そこでは医療と生活支援のプロフェッショナルとして質の高い技術により理学療法士という専門職としての結果を出すことが大前提です。現在、地域局長として活動の基盤となる支部（ブロック）組織と近隣療法士間の連携強化を担当しています。また災害対策部理事としては京都J.R.A.Tの発足と京都府との協定締結（2024年12月）を達成し、平時より有事に備えた準備に取り組んでいますが、両者に共通する部分として、今後、京都府理学療法士会が職能団体として、コミュニティー（横の繋がり）とネットワーク（資源の繋がり）を構築しつつ専門職としての資質向上と地域住民・社会における公益性を担っていけるよう微力ながら一端に加わりたく代議員に立候補をいたしました。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 江平 知子  
氏名ふりがな えひらともこ  
都道府県士会 京都府  
年齢 58  
勤務先名称 肢体不自由児・重症心身障害児  
施設聖ヨゼフ医療福祉センター

### 日本理学療法協会活動歴

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成28年～ 理事  
平成30年～ 社会局局长  
令和6年～ 副会長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

### 立候補の趣旨

日本理学療法士協会の組織率は年々低下しています。  
協会は、理学療法士がより良い環境で仕事ができるようにと取り組みを進めていただ  
いていますが、これが会員に届いていない。  
また、一方で会員の求める声が協会に伝わりにくくなっていることを感じます。  
私は、これまでも代議員を務めさせていただいておりますが、まだ十分ではありません  
。引き続き、それぞれを繋げる仕事をさせて頂きたいと思っております。



氏名 安彦 鉄平  
氏名ふりがな あびこ てっぺい  
都道府県士会 京都府  
年齢 47  
勤務先名称 京都橘大学

### 日本理学療法協会活動歴

ガイドライン作成委員会背部障害SR班 班長 2017-2021

### 都道府県理学療法士（協）会活動歴

京都府理学療法士会 理事（広報部）2020-（現在）  
第32回京都府理学療法学会 準備委員長  
第28回京都府理学療法学会 総務局長

### 学会連合及び同連合会員団体活動歴

日本筋骨格系徒手理学療法研究会 評議委員 2022-2024  
日本運動器理学療法学会 査読委員 2022-  
第9回日本運動器理学療法学会 総務部 2019

### 立候補の趣旨

国民の健康課題の多様化や社会構造の変化に対し、理学療法士が提供できる価値を明確に示し、社会的信頼を高めることが不可欠です。臨床の質と安全を担保し、予防、生活機能の維持向上、就労支援といった強みを社会に実装し、成果として還元することが職能の発展に直結します。協会の事業がこれらの目的に真に資するものを厳しく点検し、代議員総会において必要な論点を提起してまいります。

職能団体の交渉力と信用の基盤は会員率にあります。全ての会員が「加入の意義」を実感できる組織であるために、若手のキャリア形成を支える実効性のある仕組みの構築を重視します。あわせて、会費の使途や事業成果の「見える化」を促進し、運営の透明性を確保します。現場の声を反映した議案の精査を行い、会員一人ひとりの納得感につながる論点整理に努めます。

代議員は、協会の意思決定に責任を持つと同時に、協会本部と現場の士会員を結ぶ重要な役割を担っています。決定事項を分かりやすく共有し、現場の切実な意見を審議に反映させる「建設的な循環」を構築することが求められます。地域や職域の多様な声を着実に協会へと届け、両者の架け橋としての役割を全ういたします。理学療法の未来を切り拓き、会員の皆様が誇りを持って活動できる職能団体を目指し、誠心誠意取り組む所存です。皆様の力強いご支援を心よりお願い申し上げます。